



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5
MSビル市ヶ谷台 1F
編集：全難聴事務局
電話 03(3225)5600
FAX 03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zenzennancho.or.jp

☆福祉大会開催

画像を見ていただければ、楽しい雰囲気満載の福祉大会だったことがわかりいただけると思います。大会場は、熱気に包まれ、サポーターも協力いただいた業者さんもみんな楽しく片足ジャンプをしていました。コバトン音頭は、アンコールにより2回繰り返しました。



ロビーでは、支援機器などの展示が行われ、補聴器や人工内耳の展示のほか、遠隔文字情報ソフトウェアの実演も行われました。聴導犬も一頭参加しました。人の多い状況でも、役目をはたす聴導犬の姿は頼もしい存在だと感じました。全難聴の販売ブースは**荒川理事**にもご協力いただき、**ゆるキャラ**も買いに来るほどの盛況でした。

大会の式典では、大会宣言に続き、「難聴者、中途失聴者に対する私たちの取組の理念」を謳う大会決議が**川場副理事長**により、伝えられました。

多くの来賓の方々からの祝辞をいただきましたが、中でも厚生労働省自立支援室長から意思疎通に関するお話をうかがうことができたのは貴重な体験でした。

分科会

前日の1日目には、7つの分科会が浦和周辺4箇所の会場で行われました。

● 第1分科会「笑いヨガ」(女性分科会)

テーマ：体験講座「笑いヨガ」／サブテーマ：笑いは最高の薬・笑って笑って心身共に、リフレッシュしよう。

永末理事が座長でした。

● 第2分科会「障害者制度改革と障害者総合支援法」

～障害の範囲とデシベルダウンをどう考える？～

新谷副理事長が座長を務め、指定発言者として齋藤監事がパネル席から発言しました。特にデシベルダウンについて、全難聴の動きを丁寧に根気よく説明をしました。

● 第3分科会「災害分科会」

テーマ：「個人で！組織で！災害対策」／ サブテーマ：仲間を守れる全難聴になろう！

小川理事が座長を務め、震災を振り返り、個々の取組について提言しました。

● 第4分科会「難聴・中途失聴者の心の問題」（青年分科会）

～メンタルヘルスについて考えてみよう～

他の分科会会場から一駅離れた場所にもかかわらず、大勢の参加者があふれていました。座長は、全難聴青年部の藤原稔之中央委員が担当し、根間理事が講師を努めました。

● 第5分科会「聴覚補償」

テーマ：うまく生かしてますか？ 補聴器&人工内耳

瀬谷理事座長のもと、補聴器、人工内耳それぞれの立場からの意見が出され、佐野事務局長は自分史の披露から補聴器装用に関する体験談を語りました。

● 第6分科会「『自動的に音声が表示される夢の会話支援機』の現状と将来」

川井副理事長が座長を務め、会話支援機の現状を実際に体験しました。

● 第7分科会「要約筆記問題」

テーマ：よく分かる「総合支援法」での要約筆記／ サブテーマ：利用団体（者）として始めたいアクション

藤谷理事を座長に、高岡理事長、高岡芳江さん、全要研山岡さんらの法制度解説を含めた分科会でした。

☆要望事項

平成24年度日身連とりまとめの国に対する要望項目に、全難聴は以下の事項を提出しました。

1. 障害は機能障害と社会環境により生じるという権利条約の考えに基づき、聴覚障害の情報アクセス・コミュニケーション保障の観点からあらたな障害認定基準を求める。

2. 身体障害者福祉法の聴覚障害認定基準を国際的なレベルに変更してください。

（デシベルダウン運動）

（説明）

情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの理念が浸透しつつある社会では聴覚障害の程度に関わらず、個々に対応した情報・コミュニケーションの保障がなされるべきである。

しかし、福祉サービスの対象として「聴覚障害」の認定が必要となる。純音検査による聴力機能だけでなく、当事者のコミュニケーションのニーズ（生活上の困難度）も加味して設定される必要がある。

現行身体障害者福祉法の認定基準は算定根拠自体が聴覚障害者の生活実態から乖離し、国際的基準（500Hz～4kHzで両耳平均聴力40dB以上）からみても重度障害

の基準（500Hz～2kHzで両耳平均聴力70db以上）になっている。

40年の聴障者運動のなかでも差別解消としての最も重要な要求です。

特に幼少期、学齢期の言語獲得時にある児童、生徒にとっては、将来の社会を背負って立つ人材育成という観点からも重要な問題であり、社会にとっての大きな損失でもある。地方自治体では、学齢期に達した軽・中等度難聴時への補聴器交付や補聴援助システム機器の貸与等が進んできていることは、事の重要性を地方自治体が認識し対応を急いだからである。国レベルにおいても18歳未満の両耳平均聴力レベル40デシベル以上の児童・生徒に対する福祉サービスの対象とすることは喫緊の課題として捉えること、及び身体障害者福祉法別表の聴覚障害認定基準を改訂すべきである。

☆関連する各地の動き（難聴児への補聴器補助に関して）

栃木県中等度難聴児への補聴器交付（自立支援法に準じた交付）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/audiology/54/1/54_1_63/_pdf

東京都議会 24 年度定例会にて「身体障害者手帳交付に該当しない中等度難聴児に対する補聴器購入費用等助成に関する請願」 **採択**

http://www.gikai.metro.tokyo.jp/bill/details/s24_4_0.html

山梨県、来年度から国対象外の軽・中等度難聴児の補聴器購入費補助

<http://www.sannichi.co.jp/local/news/2012/12/21/6.html>（山梨日日新聞）

この他の難聴児への補聴器に関する助成事業を行っている地方自治体については、当会HP補聴医療対策部ページを御覧ください。

（http://www.zennancho.or.jp/hearing_aid/hearin_aid_welfare_intro.htm）

☆日本障害フォーラム（JDF）全国フォーラム



12月6日灘尾ホールにて、JDF 全国フォーラムが開催されました。佐野事務局長ならびに事務所職員は設営準備のため、要員として参加しました。

はじめに、国連障害者権利委員会委員長のロン・マッカラム氏による基調講演「障害者権利条約と制度改革」が行われました。

午後には「制度改革の到達点とこれからの課題」と題するシンポジウムが開催され、新谷副理事長がシンポジストとして

登壇し、差別禁止法をはじめとする国内法制と批准への展望について意見を述べました。

会場から高岡理事長が、法整備実現に向けての期待を述べました。

ちなみに、本フォーラムでは、情報保障は「目で聴くテレビ」による『遠隔文字通訳』（入力者は会場ではなく自宅等から通信回線を利用して音声、文字をやり取りする方法）でした。会場では送られてきた文字情報を表示用パソコンからプロジェクターで投影しました。入力者は埼玉、大阪、広島の方が担当されたとのこと。



会場にパソコン入力者の姿はありません。

☆理事等の動き（12月1日～12月28日）

12/1～2	福祉大会 in 埼玉(高岡、川井、川場、新谷、小川、佐野、宮本、荒川、工藤、瀬谷、永末、根間、藤谷、星野、湯浅、齋藤、田代、吉野)
12/6	厚労省大臣表彰式(高岡)
12/6	JDF フォーラム(高岡、新谷、佐野)
12/10、17	障害者政策委員会(新谷)
12/12	JDF 差別禁止法小委員会(新谷)
12/13	情報文化センター評議員会(高岡)
12/14	全社協第3回災害時障害者避難等に関する研究会(小川)
12/14	テクノエイド協会 補聴器協議会 認定補聴器技能者 認定審査部会参加(佐野)
12/17	日盲連・全難聴・盲ろう者協会・全日ろう連四団体会合(高岡、新谷)
12/18	差別禁止法小委員会(新谷)
12/19	自立支援本部拡大会議(高岡、川井)
12/24	全難聴・全要研 定期協議会(高岡、佐野、藤谷)
12/25	JDF 幹事会(新谷)
12/27	厚労省自立支援振興室訪問。要綱確認及び要望(高岡)

☆専門部の動き

情報文化部(12/21)

総務省あて、「放送法施行規則等の一部を改正する省令案等に係る意見」提出

青年部

関東ブロック青年部との合同企画。
鳴子温泉郷にてスキー&温泉交流会。

青年部

「青年層会員に関する実態調査アンケート」を全協会対象に実施。

25年2月実施の青年部活動者研修合宿にて行う意見交換のための調査活動。

☆事務局報告

- 12月4日 埼玉大会記念誌(大会宣言、決議含む)各後援団体へ発送。
- 12月5日 国際会議報告書編集委員会議(事務所にて)
- 12月6日 JDFフォーラム要員参加(事務局から3名)
- 12月13日 高松観光コンベンション・ビューロー来所。
- 12月25日 国際会議報告書編集委員会会議(三田会館にて)
- 12月25日 顧問税理士との相談
- 12月26日 年賀状発送。
- 12月27日 要約筆記事業研修会テキスト受講者へ発送。
- 12月28日 「難聴者の明日」第158号発送。
- 1月12日～13日 要約筆記事業研修会(静岡)

平成24年度事務局年末年始休業日
12月29日～1月6日

☆耳マーク活用事例について

全難聴ホームページ内に、「耳マーク活用事例」ページができています。

http://www.zennancho.or.jp/mimimark/mimimark_example.html

空港、図書館、市バス、医院、薬局などで、耳マーク表示の例をピックアップして、ご紹介しています。また、耳マーク腕章、ベストなどの活用例も画像で見ることができます。

最新情報としては、上野の東京都美術館でも、新たに耳マーク案内板が設置されました。

皆さんのお住まいの近くで活用事例がありましたら、事務局までお知らせください。